

## 歯科健診に対する意識調査の結果について

### 【現状および課題】

- ・定期的な歯科検診による継続的な口腔管理は、成人期の主な歯の喪失原因である歯周病のリスクを有意に低下させることが明らかになっているが、本市では過去1年間に歯科健診を受診した者の割合が20歳代・30歳代の若年層で低く、特に男性においてそれぞれ20%、26%と低い傾向にある。
- ・若い世代に対する歯科健診受診率改善を含めた歯科保健の向上が課題となっている。

### 【アンケート調査の概要】

#### 1 目的

保健行動の変容が難しい若い世代において、効果的な取組について検討するため、歯科健診受診に関するアンケート調査を実施

#### 2 対象

平成27年7月実施の3か月児健診受診対象者の保護者（母親）1,247人

#### 3 方法

- ・平成27年7月実施の3か月児健診受診対象者に対する受診案内通知にアンケートはがきを同封し、平成27年5～6月に発送
- ・平成27年7～12月までに回収し、回答を集計

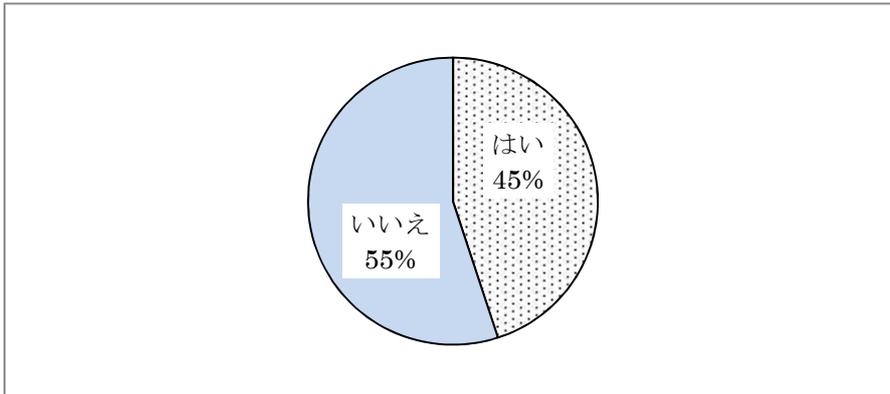
#### 4 回答数

212人（回答率 17%）

【アンケート調査集計結果】

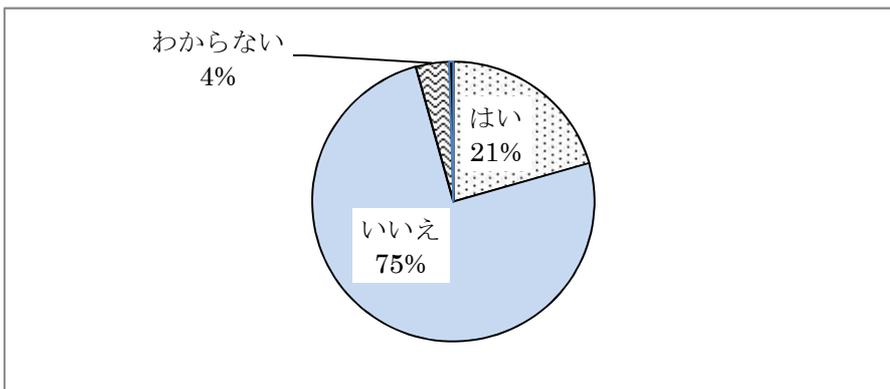
Q1 あなたは、定期的に歯科健診を受けていますか

1. はい 95人      2. いいえ 117人



Q2 パートナーの方は定期的に歯科健診を受けていますか

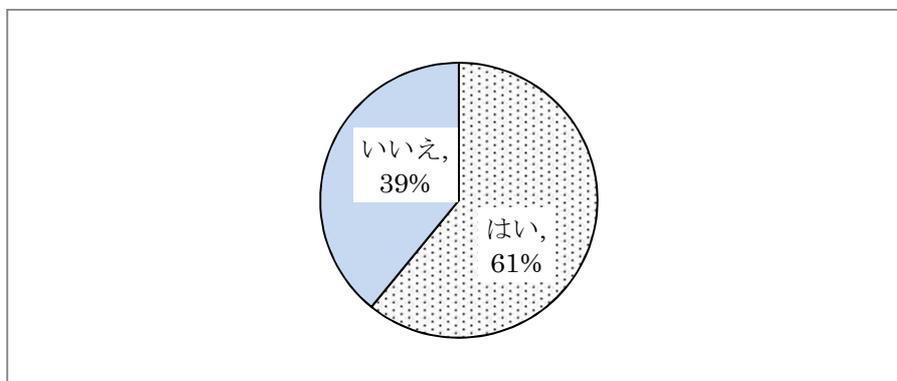
1. はい 45人      2. いいえ 158人      3. わからない 8人      未記入 1人



⇒ Q1とQ2の結果より、若い世代では、定期的に歯科健診を受診している男性の割合が女性に比べて低い傾向であることが示されている。

Q3 妊娠中に歯科医院を受診しましたか

1. はい 129人      2. いいえ 83人

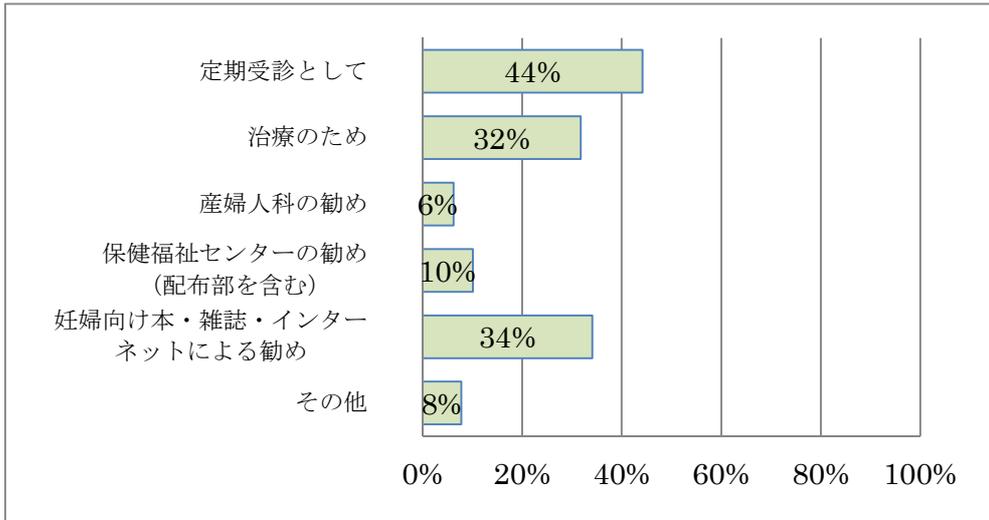


⇒ Q1とQ3の結果より、妊娠時では歯科医院を受診する者の割合が増加することが示されている。

Q4 Q3で「はい」を選んだ方にお尋ねします。⇒ 129人の回答

受診した理由をお聞かせください。(複数回答可)

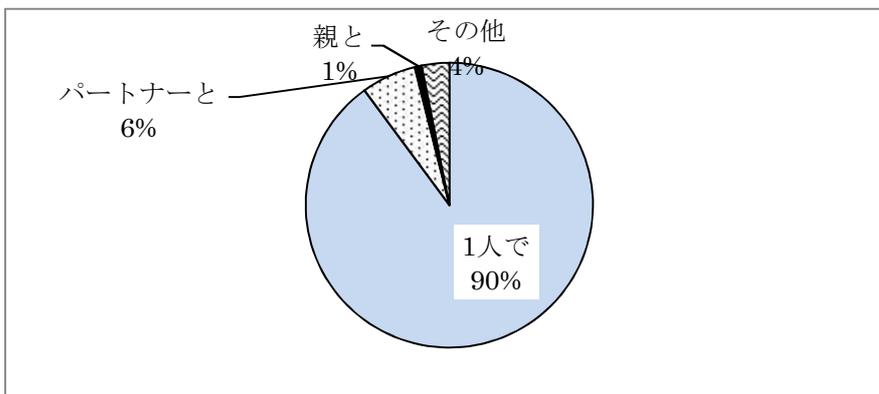
1. 定期的に通診しているため 57人
2. 治療のため 41人
3. 産婦人科で勧められたため 8人
4. 保健福祉センターで勧められたため(配布物も含む) 13人
5. 妊婦向けの本・雑誌、インターネット等の情報で受診を勧められていたため44人
6. その他 10人



Q5 Q3で「はい」を選んだ方にお尋ねします。⇒ 129人の回答

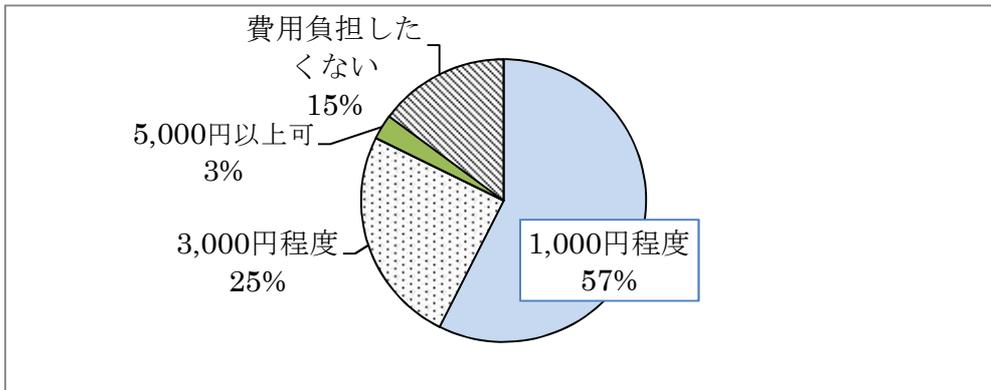
どなたと歯科医院を受診しましたか

1. 一人で 116人
2. パートナーの方 8人
3. 親 1人
4. きょうだい・親戚 0人
5. 友人 0人
6. その他 6人



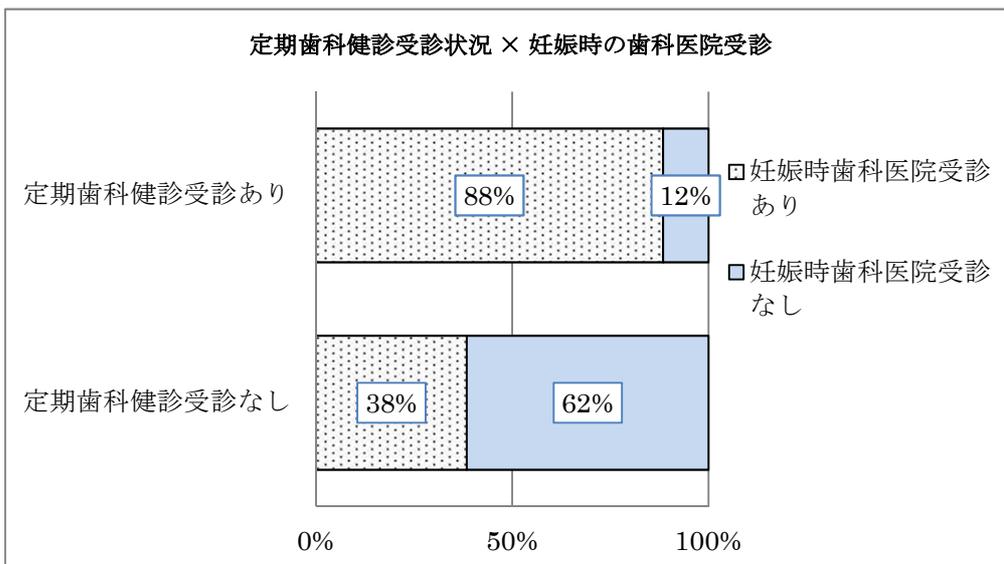
Q 6 健診費用がどの位までなら定期歯科健診を受けようと思いますか

1. 1,000円程度 122人      2. 3,000円程度 53人  
 3. 5,000円程度 6人      4. 費用は負担したくない 31人



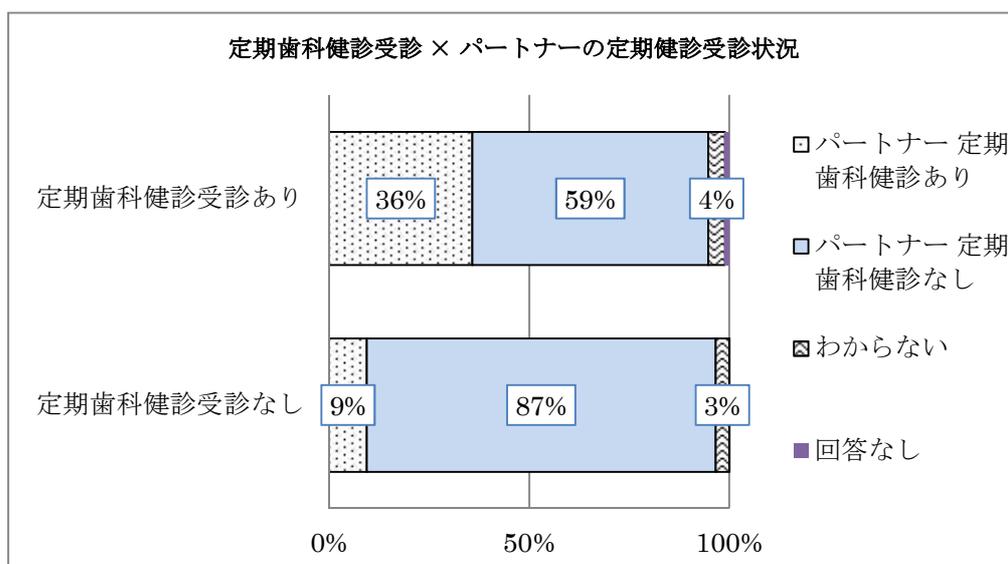
【クロス集計結果】

(1) 定期歯科健診受診状況と妊娠時の歯科医院受診状況について



- 定期歯科健診を受診している者では、妊娠時に歯科医院を受診している者の割合が高い。  
 ⇒ 妊娠する前から定期的に歯科健診を受診する習慣を持つことが好ましいことが推察される。
- 定期的に歯科健診を受診する者は、自発的に妊娠期においても歯科医院を受診している一方で、定期的に歯科健診を受診しない者であっても、妊娠期には4割が歯科医院を受診することが示されている。  
 ⇒ 妊娠期には「歯と口の健康」に対する意識が高まることが示されている。  
 ⇒ 妊娠期に歯科医院を受診していない者が回答者の4割近く認められたことから、妊婦を含めた若い世代に対して歯科健診を含めた取組の重要性が示唆されている。

(2) 定期歯科健診受診状況とパートナーの定期歯科健診受診について



定期歯科健診を受診している者のパートナーの方が、定期歯科健診を受診していない者のパートナーよりも、歯科健診を受けている者の割合が高い。

⇒ 夫婦あるいはカップルにおいて、女性の歯科保健への意識の高さが男性の歯科保健行動にも影響を与えることが推察される。

⇒ 若い世代の男性の歯科健診受診向上については、パートナーである女性を巻き込むような形での取組が効果的である可能性が示唆されている。